

## 【2017年】

初年度は、ネットワーク構築の円滑化につながる産地訪問や、日中韓の関係者との調整を、韓国を一つの拠点として精力的に実施した。

プロジェクトの開始後、2017年11月より代表者の香坂はソウル大学の農学部研究科の客員教授を兼務。日本のハブを務める森林伝統知に関するアジアの研究ネットワークの韓国での会議にも招聘され、講演及び今後の中韓での活動を推進するため、中韓の新たな連携研究者や実務家と活動を展開することを目的とした情報交換を行い、今後の計画も共有した。

同年11月にプロジェクト参加者の内山も、日中韓の環境教育自治体ネットワーク会合に参加後、環境教育の日中韓の国際会議にも招聘され、伝統野菜を活用した環境教育、知財教育の実践に関して講演を行った。

プロジェクトを遂行するうえで必要とされる教育へのアプローチを小中学校、高校等にて、日中韓の関係者とともに、現地の小学校にて、環境教育のワークショップを実施し、ネットワークを構築した。

日本国内の教育実践では、プロジェクト参加者の世良が三重において展開していた、「伝統野菜を活用した知財教育の実践」の成果を、同年12月に四日市大学による高校生活動発表会において発表、発信した。

また同年には、韓国の国立博物館における「アジアの食の企画展」において、展示の視察及び現地担当者と情報交換を行い、レシピ集のアイデア形成につなげることができた。



伝統知ネットワークの集合写真